

平成26年度 生涯学習基礎調査
生涯学習・社会教育における人材育成についての実態調査（市町村教育委員会・公民館）
（報告）

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査対象	
3	調査方法	
4	調査内容	
5	調査の回収結果	
II	調査結果の概要	2
1	生涯学習・社会教育における人材育成に関する講座について	
	・【問1】実施状況	
	・【問2-1】講座の分野	
	・【問2-2】講座数と延べ日数	
	・【問2-3】講座の形態	
	・【問2-4】講座の対象	
	・【問2-5】実施後の課題	
	・【問3】代表的な取組について	
	・【問4】今後人材育成が必要と考えられる分野	
2	【問5】「家庭教育カウンセリング専門講座」修了者の活用について	6
3	県内の事例紹介	6
4	まとめ	7
III	集計資料	8
IV	調査票(参考資料)	10
V	調査結果概要(ダイジェスト版)	14

I 調査の概要

1 調査の目的

市町村教育委員会・公民館等を対象に、市町村での生涯学習・社会教育における人材育成についての実施状況や取組内容等を調査し、群馬県生涯学習センターがとるべき市町村支援の在り方を探る。

2 調査対象

- 各市町村教育委員会等の生涯学習・社会教育担当課・係（35課・係）
- 各市町村の代表の公民館（生涯学習センター・社会教育総合センター）（4町村を除く31館）

3 調査方法

調査票による自記式の質問紙法で、平成27年1月20日付で郵送し、平成27年2月5日を提出期限として回収。その後、代表的な取組についての聞き取り調査を実施。

4 調査内容

平成26年度に市町村教育委員会・公民館等で実施した生涯学習・社会教育における人材育成に関する内容の講座の実施状況

質 問 事 項	
1 生涯学習・社会教育における人材育成に関する講座について	
問1	実施状況
問2-1	講座の分野
問2-2	講座数と延べ日数
問2-3	講座の形態
問2-4	講座の対象
問2-5	実施後の課題
問3	代表的な取組について
問4	今後人材育成が必要と考えられる分野
2 「家庭教育カウンセリング専門講座」について	
問5	講座修了者の活用について

5 調査の回収結果

	配付数	回収数	回収率
市町村教育委員会	35	28	80%
市町村代表公民館（※4町村を除く）	31	20	65%
全 体	66	48	73%

II 調査結果の概要

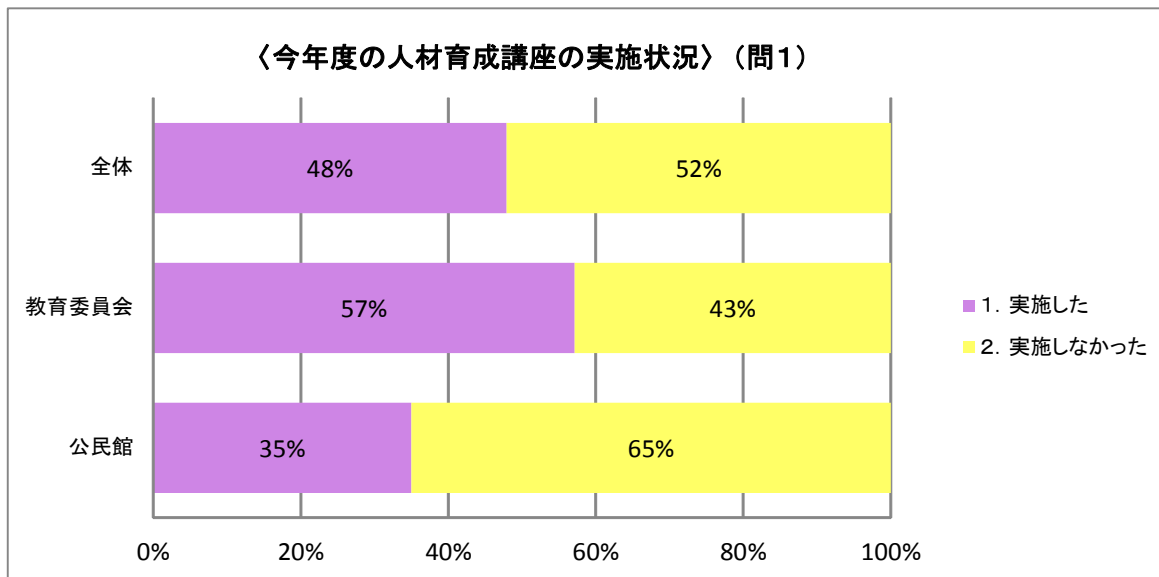
1 生涯学習・社会教育における人材育成に関する講座について

問1 今年度、生涯学習・社会教育における人材育成に関する講座を実施しましたか？

(1つ回答)

※全教育委員会・公民館が対象

講座を実施した教育委員会は57%(16/28)、公民館は35%(7/20)であった。

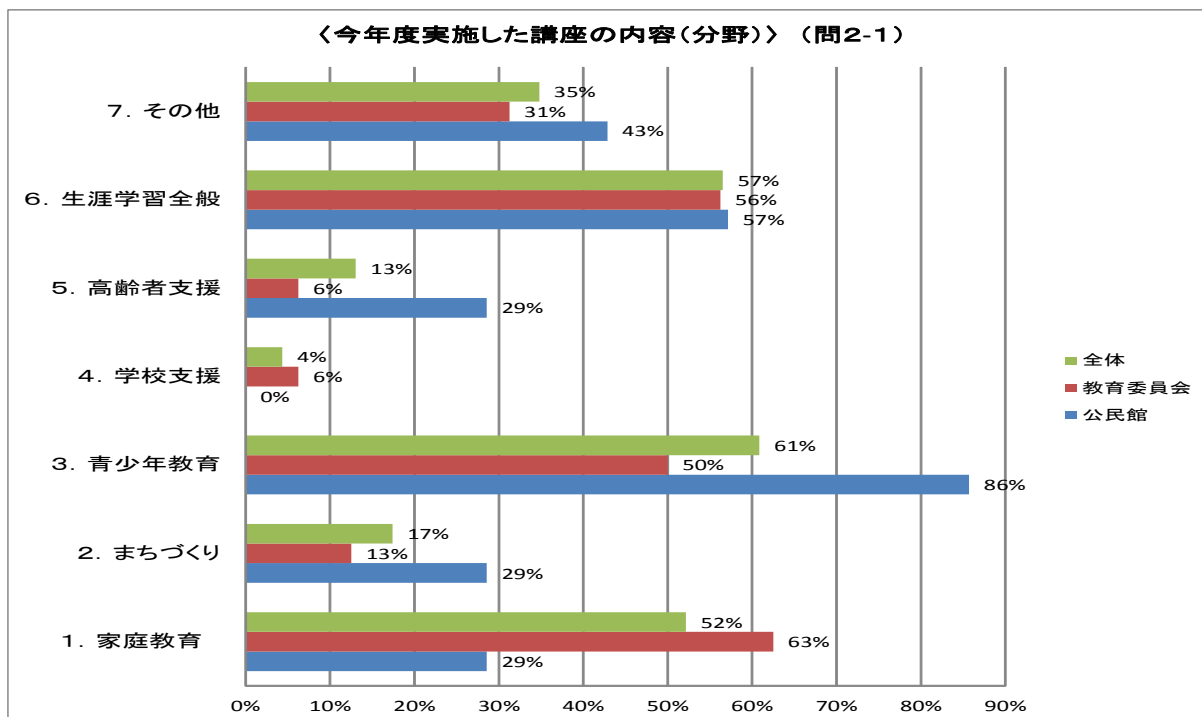


問2-1 実施した講座の分野は？

(複数回答可)

※講座を実施した16教育委員会、7公民館が対象

教育委員会は「家庭教育」が63%と最も高く、次いで「生涯学習全般」が56%で高い。公民館は「青少年教育」が86%で最も高く、次いで「生涯学習全般」が57%で高い。



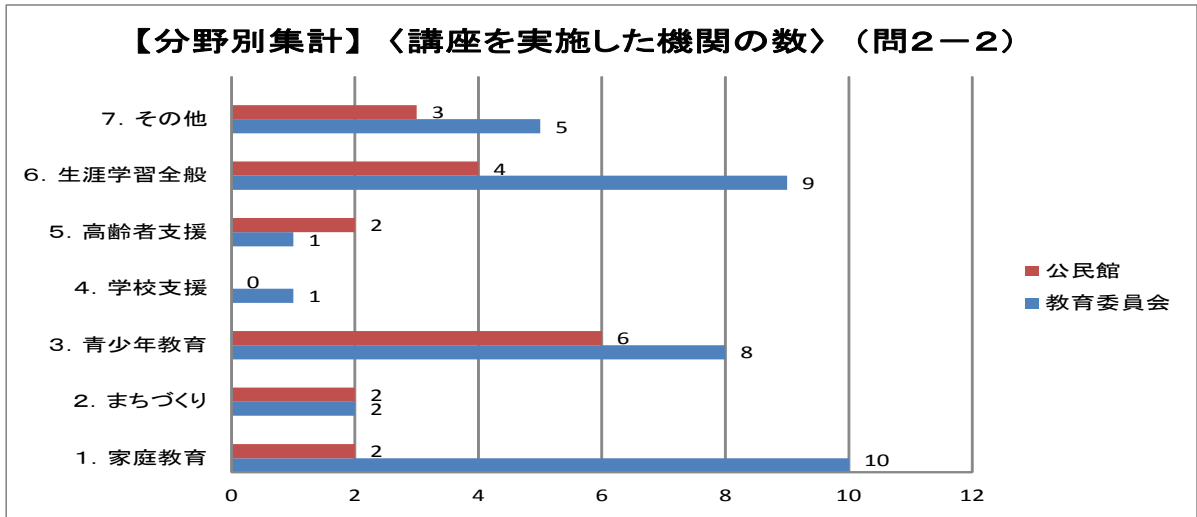
問2-2 講座数と延べ日数は？

※講座を実施した16教育委員会、7公民館が対象

全体では244講座、延べ854日実施している。

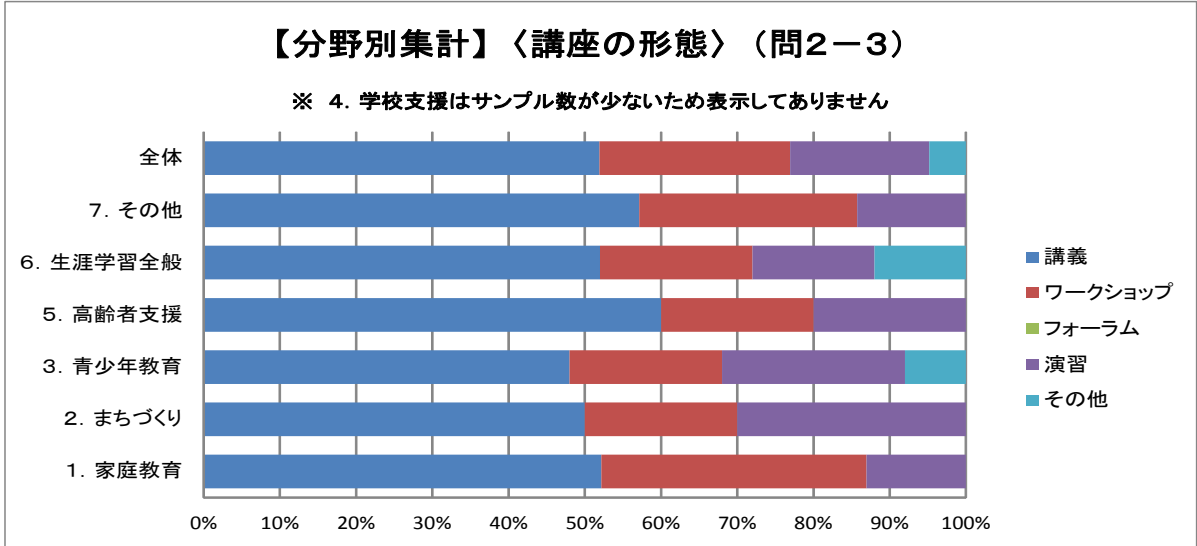
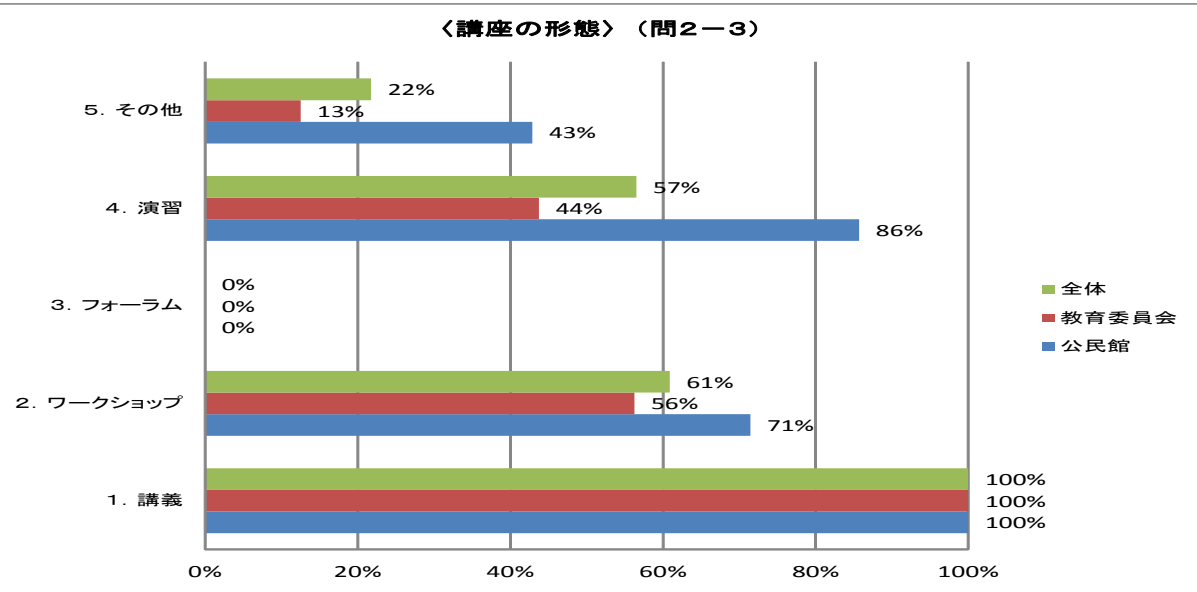
〈今年度実施した講座数と延べ日数〉(問2-2)

	教育委員会	公民館	全体
講座数	182	62	244
延べ日数	331	523	854



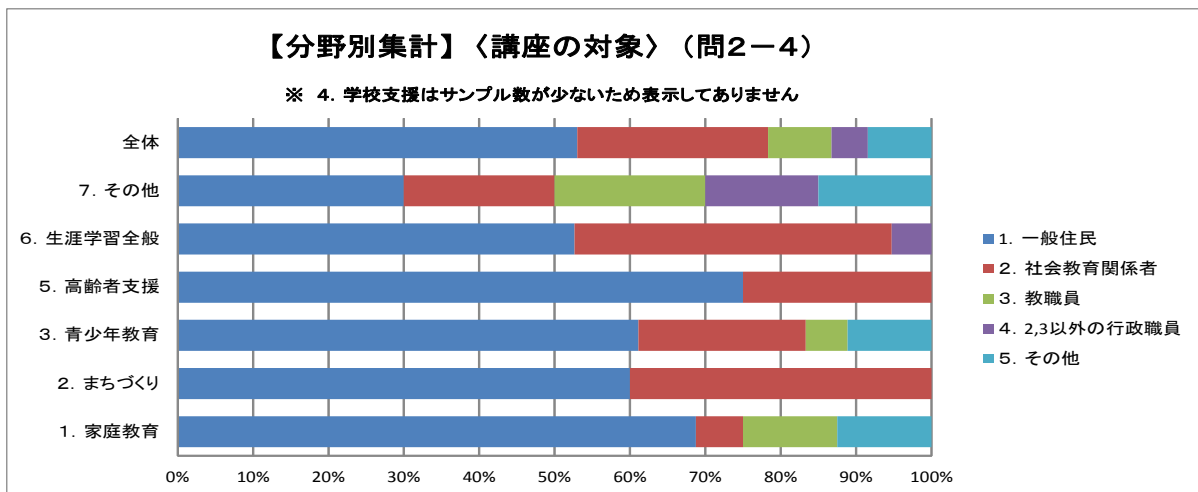
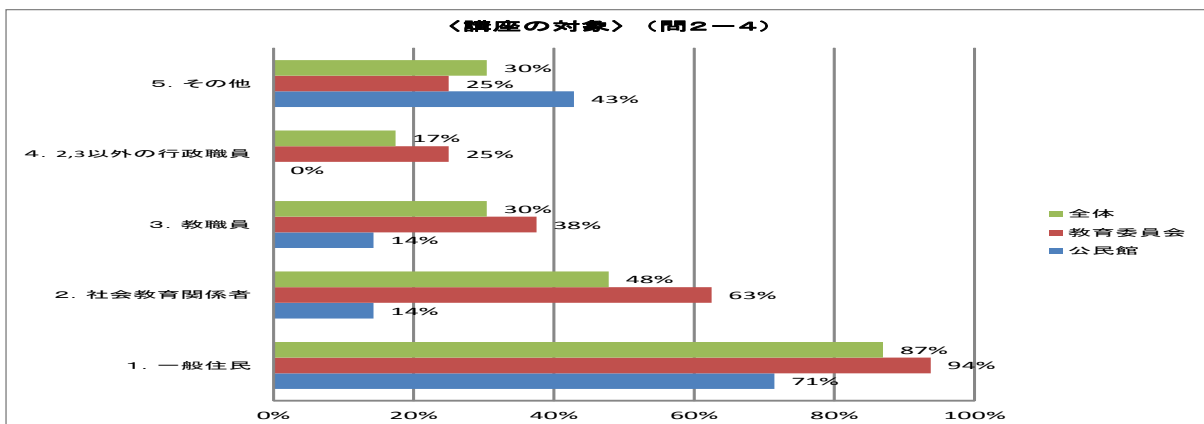
問2-3 講座の形態は？ (複数回答可)

※講座を実施した16教育委員会、7公民館が対象
 どちらも「講義」が100%で最も高い。次いで教育委員会は「ワークショップ」が56%で高く、公民館は「演習」が86%で高い。「フォーラム」については実施がない。
 分野別集計でも、各分野で同じような傾向が見られる。



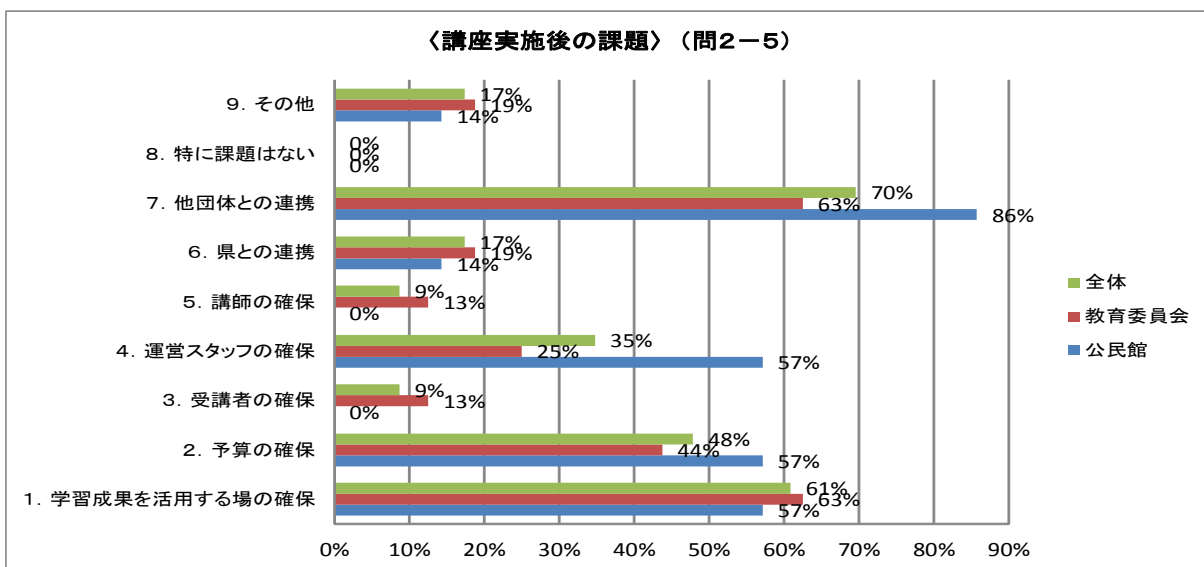
問2-4 講座の対象は？ (複数回答可)

※講座を実施した16教育委員会、7公民館が対象
 どちらも「一般住民」が最も高い(教育委員会94%、公民館71%)。公民館では「一般住民」以外の対象は低い。
 分野別集計を見ると、教職員対象は「家庭教育」「青少年教育」の2分野となっている。



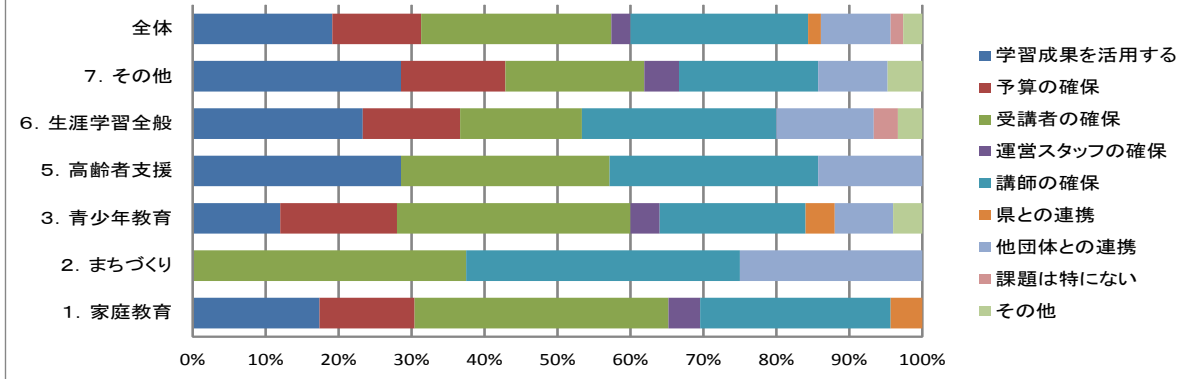
問2-5 講座実施後の課題は？ (3つまで回答)

※講座を実施した16教育委員会、7公民館が対象
 教育委員会は「学習成果を活用する場の確保」「他団体との連携」が63%と最も高い。公民館は「他団体との連携」が86%で最も高い。「特に課題はない」はともに回答がない。
 分野別集計を見ると、まちづくりについては、他分野では回答の多い「学習成果を活用する場の確保」の回答がない。



【分野別集計】〈講座実施後の課題〉（問2-5）

※ 4. 学校支援はサンプル数が少ないため表示してありません



問3 代表的な取組がありましたら、ご紹介ください。

※講座を実施した16教育委員会、7公民館が対象

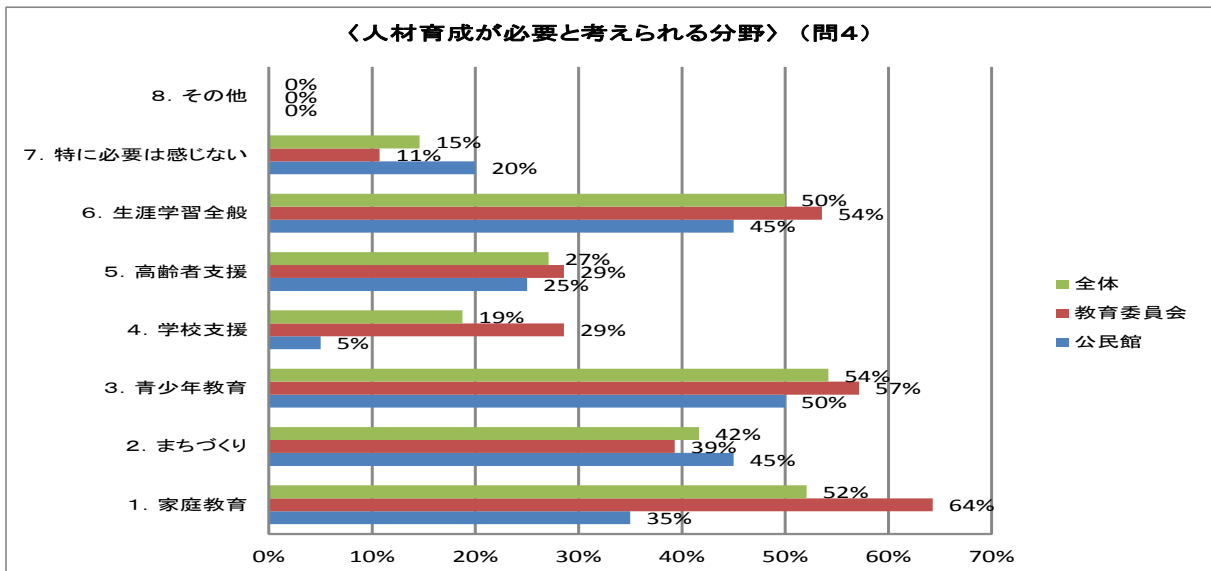
機関名	講座名	分野
前橋市教育委員会	ボランティア育成講座	生涯学習全般
高崎市教育委員会	子育て支援スキルアップ講座(支援者向け)	家庭教育
沼田市教育委員会	家庭教育カウンセリング初級講座	家庭教育
館林市教育委員会	人権指導者養成講座	その他(人権)
渋川市教育委員会	生涯学習推進指導者養成講座	生涯学習全般
藤岡市教育委員会	人権指導者養成講座	その他(人権)
安中市教育委員会	家庭教育カウンセリング初級講座	家庭教育
みどり市教育委員会	人権教育指導者養成講座	その他(人権)
玉村町教育委員会	生涯学習推進員実務研修	生涯学習全般
邑楽町教育委員会	生涯学習課職員研修会	生涯学習全般
前橋市中央公民館	名寿大学4年生特別講座	高齢者支援
	子育てボランティア講座	家庭教育
	本庁管内生涯学習奨励員実践研修会	生涯学習全般
	Mキッズサミット	青少年教育
富岡市生涯学習センター	富岡学	生涯学習全般
榛東村中央公民館	生涯学習講座	生涯学習全般
大泉町公民館	青少年リーダー養成講座	青少年教育
邑楽町公民館	ジュニアリーダー養成研修会	青少年教育

問4 今後人材育成が必要と考えられる分野は？

(3つまで回答)

※全教育委員会・公民館が対象

教育委員会は「家庭教育」が64%と最も高く、次いで「青少年教育」が57%で高い。公民館は「青少年教育」が50%と最も高く、次いで「まちづくり」「生涯学習全般」が45%で高い。



2 「家庭教育カウンセリング専門講座」について

問5 群馬県生涯学習センターでは、人材育成と人材活用の一環として、主催事業「家庭教育カウンセリング専門講座」の修了者名簿を毎年各市町村教育委員会へ送付させていただいております。その修了者及び修了者名簿について、各市町村で活用例等がありましたら記入してください。

※全教育委員会・公民館が対象

機関名	活用例
安中市教育委員会	・修了者名簿をもとに人材登録をする。 ・本人の意向を伺い、カウンセリング研究会や子育てサロン・学童等に修了者の情報提供をする。
榛東村中央公民館	・榛東村生涯学習ボランティア人材バンク

3 県内の事例紹介

渋川市教育委員会主催「生涯学習推進指導者養成講座」(分野:生涯学習全般)

問3で回答のあった代表的な取組の中から、渋川市教育委員会主催「生涯学習推進指導者養成講座」を紹介します。

(1)趣旨

渋川市の「地域の教育力を高める生涯学習活動」を推進するため、各地域で市民によって主体的に行われている生涯学習活動を指導する人材を育成し、地域活動の実践をとおして特色ある地域づくりを図る。

(2)開講までの経緯

渋川市生涯学習推進計画(平成25年1月策定)をもとに平成25年度に開講した。

(3)対象者

社会教育関係団体等の指導者、自治会活動等の指導者、一般市民、社会教育関係職員から公募または選出する。

(4)内容

・生涯学習活動を推進する指導者としての資質を高めるために次の内容の講習・研修・実習を実施する。

- ①生涯学習・社会教育の基礎知識講習
- ②地域等の生涯学習活動の実践研修
- ③生涯学習事業等の企画実習

・2年の単位制(6単位/年)で講座修了者(全12単位取得者)を各地区での生涯学習推進指導者として認定し、生涯学習活動の地域推進役として活動を奨励する。

・研修構成は以下のとおり。

- | | |
|------------|-----------|
| 生涯学習概論ⅠⅡⅢ | 社会教育概論ⅠⅡ |
| 社会教育施設概論ⅠⅡ | 実践事例研究ⅠⅡⅢ |
| 研修実習ⅠⅡ | |

(5)特色・工夫点

- ・市内すべての地域で生涯学習活動を推進するためには、自治会に地域のコーディネーターが必要であるとのコンセプトのもと、自治会活動等の指導者の参加を募っている。
- ・1年目は概論、2年目は実践的な内容が中心となっているが、受講者の実態やニーズに合わせて内容をアレンジしている。
- ・修了者が活動できる場の設定やきっかけづくりまでを事務局がサポートしている。
- ・社会教育関係職員としての経験年数の少ない行政職員も受講可能であり、行政(公民館等)と自治会関係者・一般市民との横の繋がりができ、修了後の活動への手助けにもなっている。
- ・2年で修了できなかった受講者は翌年へ単位を持ち越すことが可能であり、受講者のペースに合わせて受講でき、学んだことが無駄にならないシステムになっている。
- ・講座の講師は、県や市町村の社会教育関係職員が中心で、現場の様子や最新情報等を受講者へ提供している。

(6)人材活用

・今年度末に1期生9名の受講者が修了し「生涯学習推進指導者」となった。修了者へのサポートのひとつとして、事務局が「地域課題対策チーム」の呼びかけを行い、公民館と連携しながらの活動を行う。

(7)今後の課題

- ・修了者の活動の場の確保と新たな場の開拓
- ・人材枯渇への対応
- ・年度ごとの受講者の実態に応じたサポート体制の構築

公民館講座を企画してみよう！企画書			
家庭科・公民館			
『親子で楽しく学ぼう』			
講座目的：親子のふれあいの時間を増やすことを目的とし、楽しく学び、手仕事を学びながら、地域との交流を促すようにする。			
内容	時間	講師・会場	
第1回 楽しく学ぼう 1 ・自己紹介ワークショップ	9:30 ～ 11:30	家庭心理士 (データバンクより)	
第2回 楽しく学ぼう 2 ・エコクラフト	9:30 ～ 11:30	エコクラフト (データバンクより)	
第3回 作ってみよう 1 ・陶芸	9:30 ～ 11:30	陶芸家 地域で活動中の方	
第4回 作ってみよう 2 ・手工芸	9:30 ～ 11:30	手工芸 地域で活動中の方	
第5回 学んでみよう 1 ・茶道	9:30 ～ 11:30	茶道 地域で活動中の方	
第6回 学んでみよう 2 ・マナー	9:30 ～ 11:30	日本子ども作協会 (データバンクより)	
第7回 作って食べよう 1 ・かんたんお菓子作り	9:30 ～ 11:30	お菓子教室講師 (データバンクより)	
第8回 作って食べよう 2 ・うどん打ち	9:30 ～ 12:00	実職工 (データバンクより)	

特に工夫したところ：
コースを定めるほどでなかった。工夫したところは、第3回目に作るお団子、第8回目のうどん打ちです。個人的な講座を申し込まれる方が増え、楽しく学べるだけでなく、参加者の数も増え、地域との交流も深まりました。

渋川市生涯学習推進協議会事務局 第12回 2024.11.27

受講者が作成した企画書



講座(座談会)の様子

4 まとめと考察

生涯学習・社会教育における人材育成に関する講座の実施率は、教育委員会が57%(16/28)、公民館が35%(7/20)であり、分野は、教育委員会は「家庭教育」が63%、「生涯学習全般」が56%の順で高い。公民館は「青少年教育」が86%、「生涯学習全般」が57%の順で高い。また、講座の形態は、どちらも「講義」が100%であり、次いで教育委員会は「ワークショップ」が56%、公民館は「演習」が86%の順に高い。講座の対象はどちらも「一般住民」が最も高い(教育委員会94%、公民館71%)。次いで教育委員会は「社会教育関係者」が63%と高い。公民館では「一般住民」以外の対象は低い。また、講座実施後の課題は、教育委員会は「学習成果を活用する場の確保」「他団体との連携」が63%と最も高い。公民館は「他団体との連携」が86%で最も高く、次いで「学習成果を活用する場の確保」「予算の確保」「運営スタッフの確保」が57%で高い。「特に課題はない」はどちらも回答がない。さらに今後人材育成が必要と考えられる分野は、教育委員会は「家庭教育」が64%と最も高く、次いで「青少年教育」が57%で高い。公民館は「青少年教育」が50%と最も高く、次いで「まちづくり」「生涯学習全般」が45%で高い。人材育成が必要と考えられる分野は、教育委員会は「家庭教育」が64%と最も高く、次いで「青少年教育」が57%で高い。公民館は「青少年教育」が50%と最も高く、次いで「まちづくり」「生涯学習全般」が45%で高い。

回答のあった機関の約半数で講座を実施していることがわかった。講座の内容や対象を見ると、教育委員会と公民館では違いが見られ、特に講座の対象では、教育委員会では対象を広く人材育成を行っているのに対して、公民館は一般住民に限定した講座が多く、地域密着で人材育成を行っていることがわかった。課題については回答が多岐にわたることから、どの機関も多くの課題を抱えながら講座を開催していることがわかった。

5 今後の群馬県生涯学習センターの方向性

人材育成に関する講座について、今年度当センターでは、社会教育指導者養成として「社会教育推進セミナーⅠ・Ⅱ」「市町村職員のための社会教育実践研修」を実施している。また、情報教育指導者養成として「視聴覚教育メディア研修カリキュラムA・B」を実施している。さらに「社会教育実習生受入指導」「インターンシップ実習生受入指導」も実施している。特に、社会教育指導者養成では、今年度からの新規事業として「市町村職員のための社会教育実践研修」を実施した。この講座は、社会教育関係職員としての経験年数の少ない職員を対象に年5回にわたる実践的な研修を行うものであり、当センターの重点事項のひとつとして取り組み、県の生涯学習・社会教育の中核的施設としての役割を果たしている。

今回の調査の結果を受け、今後当センターでは、生涯学習・社会教育における人材育成の充実に向けた以下のような取組を行っていきたいと考える。

- ・当センター重点事項のひとつ「社会教育施設等の人材育成」に向けた講座の開催
- ・地域課題解決に向けた支援、先導的・先進的な事例提示
- ・持続可能な地域づくりや人づくりについての先導的・先進的な事例提示
- ・市町村とのプログラム共同作成 など

Ⅲ 集計結果

問1

平成26年度に生涯学習・社会教育における人材育成に関する講座(以下、「人材育成講座」という)を実施しましたか？

問1	全体		教育委員会		公民館	
	48 / 66		28 / 35		20 / 31	
(回答率)	73%		80%		65%	
1. 実施した	23	48%	16	57%	7	35%
2. 実施しなかった	25	52%	12	43%	13	65%

問2-1

平成26年度に実施した人材育成講座の分野は？(複数回答可)

問2-1	全体		教育委員会		公民館	
	23 / 66		16 / 35		7 / 31	
1. 家庭教育	12	52%	10	63%	2	29%
2. まちづくり	4	17%	2	13%	2	29%
3. 青少年教育	14	61%	8	50%	6	86%
4. 学校支援	1	4%	1	6%	0	0%
5. 高齢者支援	3	13%	1	6%	2	29%
6. 生涯学習全般	13	57%	9	56%	4	57%
7. その他	8	35%	5	31%	3	43%

7. その他
- ・人権
 - ・ボランティア育成、養成

問2-2

平成26年度に実施した人材育成講座の講座数と延べ日数は？

問2-2	全体		教育委員会		公民館	
	23 / 66		16 / 35		7 / 31	
1. 講座数	244		182		62	
2. 延べ日数	854		331		523	

問2-3

平成26年度に実施した人材育成講座の形態は？(複数回答可)

問2-3	全体		教育委員会		公民館	
	23 / 66		16 / 35		7 / 31	
1. 講義	23	100%	16	100%	7	100%
2. ワークショップ	14	61%	9	56%	5	71%
3. フォーラム	0	0%	0	0%	0	0%
4. 演習	13	57%	7	44%	6	86%
5. その他	5	22%	2	13%	3	43%

5. その他
- ・施設見学
 - ・先進地視察
 - ・実技

問2-4

平成26年度に実施した人材育成講座の対象は？(複数回答可)

問2-4	全体		教育委員会		公民館	
	23 /66		16 /35		7 /31	
1. 一般住民	20	87%	15	94%	5	71%
2. 社会教育関係者	11	48%	10	63%	1	14%
3. 教職員	7	30%	6	38%	1	14%
4. 2,3以外の行政職員	4	17%	4	25%	0	0%
5. その他	7	30%	4	25%	3	43%

5. その他
- ・PTA
 - ・小学生
 - ・中学生、高校生
 - ・企業
 - ・新入生保護者
 - ・ボランティア

問2-5

講座実施後の課題は？(3つ以内で回答)

問2-5	全体		教育委員会		公民館	
	23 /66		16 /35		7 /31	
1. 学習成果を活用する場の確保	14	61%	10	63%	4	57%
2. 予算の確保	11	48%	7	44%	4	57%
3. 受講者の確保	2	9%	2	13%	0	0%
4. 運営スタッフの確保	8	35%	4	25%	4	57%
5. 講師の確保	2	9%	2	13%	0	0%
6. 県との連携	4	17%	3	19%	1	14%
7. 他団体との連携	16	70%	10	63%	6	86%
8. 特に課題はない	0	0%	0	0%	0	0%
9. その他	4	17%	3	19%	1	14%

9. その他
- ・対象者の範囲
 - ・内容の構成、選定

問4

今後人材育成が必要と考えられる分野は？(3つ以内で回答)

問4	全体		教育委員会		公民館	
	48 /66		28 /35		20 /31	
1. 家庭教育	25	52%	18	64%	7	35%
2. まちづくり	20	42%	11	39%	9	45%
3. 青少年教育	26	54%	16	57%	10	50%
4. 学校支援	9	19%	8	29%	1	5%
5. 高齢者支援	13	27%	8	29%	5	25%
6. 生涯学習全般	24	50%	15	54%	9	45%
7. 特に必要は感じない	7	15%	3	11%	4	20%
8. その他	0	0%	0	0%	0	0%

平成26年度生涯学習基礎調査

生涯学習・社会教育における人材育成についての実態調査（市町村教育委員会・公民館） 調査への御協力のお願い

1 趣旨

東日本大震災以降、地域の絆が再認識され、地域の活性化に向けた特色ある地域づくりの取組が数多く展開されています。地域づくりには地域の多様な人材が不可欠であり、それ故、地域における人材育成は生涯学習・社会教育の中の大きな要素であると言えます。

また、県では平成26年3月の第2期群馬県教育振興基本計画に「地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築」を基本施策のひとつに掲げ、その中の取組の柱16として「社会教育を推進し地域の教育力を高める」を、取組36として「地域の学びを支える人材づくり」を挙げ、地域における人材育成の大切さを示しています。

そこで、本調査は、市町村での生涯学習・社会教育における人材育成についての実施状況や取組内容等を調査し、調査結果を全県に発信するとともに群馬県生涯学習センターがとるべき市町村支援の在り方を探ることを目的として実施します。

2 記入に当たって

- ・回答は、全て**回答用紙**に御記入ください。
- ・調査結果は、群馬県生涯学習センターのホームページにて公開します。

3 提出に当たって

- ・群馬県生涯学習センター学習振興係まで、**FAX**または**メール**でお願いします。
- ・本調査票は、群馬県生涯学習センターのホームページ上にも掲載しておりますので、必要な場合はダウンロードの上、御使用ください。

URL : <http://www.manabi.pref.gunma.jp>

(センターHP → 上段バナー「調査・研究」 → 「平成26年度 生涯学習調査研究」)

- ・提出は、**回答用紙**を**平成27年2月5日（木）**までをお願いします。

4 本調査に関する問い合わせ先

- ・群馬県生涯学習センター 学習振興係（担当：石原）
- ・TEL：027-224-5700 FAX：027-221-5000 E-mail：ishihara-to@pref.gunma.lg.jp

「生涯学習・社会教育における人材育成についての実態調査(市町村教育委員会・公民館)」
調 査 票
 (回答は回答用紙にご記入ください)

市町村名		回答担当部署	
回答者職名		回答者氏名	
電話番号		E-mail アドレス	

問 1 今年度、貴教育委員会・貴公民館では、次の に挙げる分野の生涯学習・社会教育における人材育成に関する講座(以下、「人材育成講座」という)を実施しましたか？ 回答欄に○を記入してください。

分野	講座の例
家庭教育	・子育て支援者を育成する講座 ・家庭教育カウンセリング講座
まちづくり	・地域の役割を担う人材を育成する講座 ・まちづくりサポーター等を育成する講座
青少年教育	・自然体験活動指導者を育成する講座 ・子ども育成会等の指導者を育成する講座
学校支援	・学校支援コーディネーター・ボランティア等を育成する講座
高齢者支援	・地域で高齢者をサポートする人材を育成する講座
生涯学習全般	・生涯学習全般に係る人材を育成する講座 ・複数にまたがる分野の人材を育成する講座

1. 実施した → 問 2 - 1 以降、お答えください
 2. 実施していない → 問 4 以降、お答えください

問 2 - 1 どの分野の人材育成講座を実施しましたか？ 分野別に、実施した場合は○を、実施していない場合は×を表中に記入してください。その他の分野で実施した場合は具体的に記入してください。○を記入した分野につきましては問 2 - 2 以降もお答えください。

1. 家庭教育 2. まちづくり 3. 青少年教育 4. 学校支援
 5. 高齢者支援 6. 生涯学習全般 7. その他 ()

問 2 - 2 問 2 - 1 で○をつけた講座について、講座数と講座の延べ日数を表中に記入してください。

例：家庭教育分野で 2 講座実施し、ひとつの講座が 3 日間、もうひとつの講座が 4 日間実施した場合 → 家庭教育の欄の講座数に「2」を記入、延べ日数に「7」を記入してください。

問 2 - 3 問 2 - 1 で○をつけた講座について、講座の形態を次の選択肢から選び、表中に数字を記入してください（複数回答可）。

1. 講義
2. ワークショップ
3. フォーラム
4. 演習
5. その他（ ）

問 2 - 4 問 2 - 1 で○をつけた講座について、対象(職種)を次の選択肢から選び、表中に数字を記入してください（複数回答可）。

1. 一般住民
2. 社会教育関係者
3. 教職員
4. 2,3 以外の行政職員
5. その他（ ）

問 2 - 5 問 2 - 1 で○をつけた講座について、講座を実施して、どのような課題があげられますか？次の選択肢から3つまで選び、表中に数字を記入してください。

1. 学習成果を活用する場の確保
2. 予算の確保
3. 受講者の確保
4. 運営スタッフの確保
5. 講師の確保
6. 県との連携
7. 他団体との連携
8. 特に課題はない
9. その他（ ）

問 3 貴教育委員会・貴公民館で開催している人材育成講座について、代表的な取組がありましたらご紹介ください（講座名と分野(問 1 参照)を記入してください）。

問 4 貴教育委員会・貴公民館では、どのような分野で人材が必要と考えていますか？次の選択肢から3つまで選び、回答欄に○を記入してください。

1. 家庭教育
2. まちづくり
3. 青少年教育
4. 学校支援
5. 高齢者支援
6. 生涯学習全般
7. 特に必要は感じない
8. その他（ ）

問 5 群馬県生涯学習センターでは、人材育成と人材活用の一環として、主催事業「家庭教育カウンセリング専門講座」の修了者名簿を毎年各市町村教育委員会へ送付させていただいております。

その修了者及び修了者名簿について、各市町村で活用例等がありましたら記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

「生涯学習・社会教育における人材育成についての実態調査(市町村教育委員会・公民館)」
回答用紙

市町村名		回答担当部署 または公民館名	
回答者職名		回答者氏名	
電話番号		E-mail アドレス	

問1	1. 実施した (問2-1以降、お答えください)	2. 実施していない (問4以降、お答えください)
----	--------------------------	---------------------------

問2		家庭教育	まちづくり	青少年教育	学校支援	高齢者支援	生涯学習全般	その他 (↓)
設問	分野							
問2-1	実施した→○ 実施していない→× ○については問2-2以降も お答えください							
問2-2	講座数							
	延べ日数							
問2-3 (複数回答可)	1. 講義 2. ワークショップ 3. フォーラム 4. 演習 5. その他 ↓ ()							
問2-4 (複数回答可)	1. 一般住民 2. 社会教育関係者 3. 教職員 4. 2,3以外の行政職員 5. その他 ↓ ()							
問2-5 (3つまで選択)	1. 学習成果を活用する場の確保 2. 予算の確保 3. 受講者の確保 4. 運営スタッフの確保 5. 講師の確保 6. 県との連携 7. 他団体との連携 8. 課題は特にない 9. その他 ↓ ()							

問3	講座名	分野
----	-----	----

問4 (3つまで選択)	1. 家庭教育 5. 高齢者支援 8. その他()	2. まちづくり 6. 生涯学習全般	3. 青少年教育 7. 特に必要は感じない	4. 学校支援
----------------	----------------------------------	-----------------------	--------------------------	---------

問5	家庭教育カウンセリング専門講座修了者及び修了者名簿の活用例
----	-------------------------------